

acaneさん（5期生）

現在：歌手

acaneさんは、小学生のころから中学校卒業まで9年間バスケットボールを続けてこられて、違うことがしたいと思い、当時立ち上げられたダンス同好会に入って人前に立つ楽しさを知ったそうです。ダンス同好会が続くように、副部長として頑張った話を伺って、「今のダンス部の活躍があるのも潰れないように努めてくださったお陰ですね」と現在のダンス部の活躍を報告しました。また、初めて大勢の前で歌ったのは、文化祭の舞台だったそうです。有志として歌う人第一号だったため

「どうして歌うのか？」と大勢の先生方による審査を受けたそうですが、2年間、文化祭の舞台上で歌ったそうです。高校3年生の時、同級生が彼女の歌に涙しているのを見て、歌の力の素晴らしさに心動かされ、卒業近くなった頃でしたが、担任の先生に「歌手になりたい。」と伝えてみたものの、「既に内定をもらっているのだから」と、高校卒業後はアパレルの会社に就職。しかし、歌うことをあきらめきれずに、オーディションを受けて合格し、19歳で音楽事務所に所属したけれどレッスンばかりの1年だったので辞めたことを伺い驚きました。週2回の路上ライブを福岡で4年間続け、上京。その半年後、路上ライブの様子が爆発的に拡散され、その頃から歌を歌うことで生計を立てることが出来るようになり、今に至っているそうです。

そんな全てのスタートは、高校1年生の時に体育祭で見たチアだったと伺いました。あんな風にかわいくなりたいと憧れて、高校3年生の時はチア長を務め、高校時代にすでにファンクラブがあったことなどを伺い、活発に過ごされていた高校生活が思い浮かびます。また、学習成果発表会のファッションショーにも出て、ジャケットやドレスも縫われたことなど、高校時代の思い出を楽しく聞かせていただきました。そんなacaneさんは現在、高校時代にドレスまで制作したことを活かし、ご自身のアパレルブランドもお持ちとのこと。

acaneさんにとって、高校3年間はダンスや洋裁をはじめ新たな世界との出会いの機会となり、価値観や世界観を大きく変えるきっかけになっていることを伺い、多感な時期で著しい成長が期待される時期に頑張っ取り組んだことの価値は大きいと改めて考えさせられました。

acaneさんが高校生に伝えたいことは、「高校は小さいけれど社会。苦手な人もいると思う。苦手だからと悪いところばかり見るのではなく、1つでもいいところを見つける努力をすると少し好きになる」と、今でも嫌いになる前にいいところを見つけていることが習慣化していると思いきりに語っていただきました。

本当は家庭に入ることが望みと、結婚して子供を出産したら辞めると言っていたそうですが、ファンが増え、ファンが支えてくれていることで仕事になっている今は、「声が出なくなるまで歌い続けたい」とマネージャーさんとファンへの感謝の言葉を口にされました。ライブに来たお客さんたちに「元気を渡せるように、楽しいと思ってもらえるように」と、全力で取り組まれているお話は、子育てやライブ活動などきくと慌ただしく大変だろうなとも思わせられました。しかし、そんな毎日すらも楽しんでいるとおっしゃるacaneさんのインタビューを通して、高校1年生の時に見たチアに憧れて始めた全てが、現在の歌声で多くの人たちを元気づけている歌手としての活動に繋がっているのかもしれないと感じました。

